

# あきらめない ころろ ～東京2020に向けて～



YMFGもみじビジネスフォーラム2018(広島)

陸上アスリート  
(うちのう整形外科 所属)

なかにし まや  
中西 麻耶

2018年10月29日、リーガロイヤルホテル広島にてYMFGもみじビジネスフォーラムを開催しました。講師は北京、ロンドン、リオと3度のパラリンピックに出場した陸上アスリートの中西麻耶氏。さまざまな苦難を乗り越え、東京パラリンピックに挑戦する不屈の精神を学ぼうと、約400社の皆さんが集まりました。

## 国体出場の夢を断たれて

小学生時代の私は、体を動かすのが大好きなスポーツ少女でした。中学入学時にソフトテニス部に入部。テニスに夢中になり、中3の時には「強豪校で活躍したい」と、インターハイ常連校の明豊高校(大分県)への進学を希望しました。しかし、私の実力は県大会1回戦、2回戦止まり。進路指導の先生に「あそこはスポーツ推薦のみ。現実を見ろ」と雷を落とされました。それでも諦めず、明豊高校に電話してテニス部の監督に直談判。特別にプレーを見てもらった日は、奇跡的にナイスサーブを連発し、滑り込みで入学を許可されました。

高2の時、ダブルスで九州大会No.1になりインターハイに出場。しかし高3の夏の予選では、団体戦3番手の私が負けたため、明豊高校のインターハイ連続出場はかないませんでした。「自分から売り込んで入部した私が、肝心の夏に学校の歴史を汚してしまった。私にテニスをやる資格はない」と、大学の推薦枠を全て辞退。テニスを

やめてしまったのです。

2年ほどアルバイトをして暮らしていましたが、2006年になって「地元で2年後に開催される大分国体に出場してから引退しよう」とテニス復帰を決意。両親には「仕事と両立するならいい」と言われ、7月に親友のお父さんが経営する鉄骨工事の会社に就職しました。9月のある日、トレーニングを兼ねて、現場で5トンの鉄骨を並べていると、ゴゴゴゴ…という津波のような音が。土ほこりに包まれた次の瞬間、私は倒れてきた鉄骨の下敷きになり、一瞬にして右足の膝から下はぐちゃぐちゃになっていました。

切断か、温存か、選択肢は二つに一つ。頭には「早くコートに戻らなければ、国体に間に合わない」という焦りしかなく、早く復帰できる下肢切断を即決。右膝下を失ったその時、21歳でした。

ようやくテニスコートに立ったのは事故から1年後。しかし思うようなショットは打てず、テニスを再開するためのリハビリ手段を探すうち、パラ(障害者)陸上の存在を知りまし



た。当時の100m日本記録保持者の走りを見た時、思ったのは「絶対、私のほうが早い」。実際、走り始めて半年もたたないうちに、100mと200mで日本記録を樹立しました。

「パラ陸上なんて、レクリエーションみたいなもの」。そんな軽い気持ちで2008年の北京パラリンピックに出場。しかし、真剣に闘う海外のトップ選手を見た途端、走る前から「負けた」と思いました。「私は障害者スポーツをなめていた。事故からの2年間を、なんて無駄に過ごしてきたんだろう」。100m6位、200m4位と入賞はしましたが、反省はありませんでした。

### 勇気を出して東京パラ五輪に挑む

本気で陸上アスリートを目指そうと決意したものの、国内では練習場所が見つからず、思い切って渡米。サンディエゴのナショナルトレーニングセンターで偶然、アル・ジョイナー※という一流コーチに出会えたことは、本当に幸運でした。ただ、現実問題として一番厳しかったのは「世間の目」。日本記録を更新しても「女子は競技人口が少ないから楽勝だ」と認めてもらえず、「障害者が夢や希望を持つことはタブー」とされる風潮の中、資金集めも難航し精神的にボロボロに。広島出身でアメリカ在住の臨床心理医、美甘<sup>みかも</sup>章子先生のサポートを受け、なんとか2012年にロンドンパラリンピックに出場したものの、結果は惨敗でした。

「陸上に私の居場所はない」と引退を宣言した矢先、本気で怒ったのはアル。「『障害者だから』と諦めているのはお前だ。わざわざアメリカまでトレーニングに来るほど陸上が好きなのだから、続ければいいじゃないか。健常者の大会にも出ればいい」と。一念発起して選手生活を再開。大分県の健常者大会にオープン参加し、走り幅跳びで5m48cmを記録しました。当時の県代表記録は5m50cm。健常者と互角の成績を出し、少し自信を取り戻しました。

2016年のリオパラリンピックは、走り幅跳びで4位入賞。2017年のロンドン世界パラ陸上では、ロンドンパラリンピックの失敗がフラッシュバックしましたが、走り幅跳びの最終跳躍の前に、美甘先生から「今までのことは全部リセットして、新しい中西麻耶として跳びなさい」と励ま



陸上アスリート  
(うちのう整形外科 所属)

なかにし まや  
**中西 麻耶**

#### ■プロフィール

1985年6月大阪生まれ。小4で大分県由布市に転居。高校時代はソフトテニスでインターハイに出場。卒業後、大分国体出場を目指していた2006年、勤務先での事故で右膝から下を切断する大けがを負う。2007年より陸上を始め、100m、200mで当時の日本記録を樹立。2008年北京パラリンピックに出場し、100m6位、200m4位と、義足スプリンターとして日本人女子初の入賞。2012年ロンドン、2016年リオのパラリンピックにも出場。2018年10月にはジャカルタ アジアパラリンピックの走り幅跳びで金メダル。現在は2020年の東京パラリンピック出場を目指している。

され、3位に入賞。この時、やっと精神的に解放されたのだと思います。そして2018年のジャカルタ アジアパラリンピックでは、念願の金メダルを手にすることができました。

現在、本拠地は地元の大分県に置いています。「麻耶が日本を好きにならなければ、日本で愛されることはないよ。日本を、そして故郷を好きになるべきだ」というアルの言葉に目が覚めました。今は大分県でできること、そして、大分県のためにできることを精いっぱいしたいと、心の底から思っています。先日、マツダスタジアムで始球式をさせていただき、ファンの熱気を肌で感じました。カーブと広島の皆さんの一体感は、まさしく私の理想です。

私は足を失いましたが、自分にしかできないたくさんの経験をしてきました。人間、環境が整わなくても、勇気は出せるもの。私の人生は、高校進学も渡米も、勇気で道を切り開き「あきらめないころろ」で前進してきました。東京パラリンピック出場を目標に、選手としても人としても成長するため頑張っていきます。

※アル・ジョイナー／ロサンゼルスオリンピックの三段跳び金メダリストで陸上コーチ。妻はソウルオリンピック100m、200m金メダリストのフローレンス・ジョイナー。

(文責 ワイエムコンサルティング株式会社 研修・会員事業部)